

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		山野 大星		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																												
工業		工科技術専門課程		建築学科		-		平成23(2011)年度		平成27(2015)年度																												
学科の目的		建築・住宅・インテリアの専門家の育成を目指し、それぞれの分野に関する総合的な知識、専門的な技術、技術者として必要な理論等について学び、それらを備え持った建築技術者を育てます。卒業後に最短で一級建築士に合格ができるよう専門性の高い知識と高度な技術を身に付けることを目的としています。さらに放送大学との併修制度により教養学を履修することで教養を高め、人間力の向上を図ります。また、企業連携課題への取り組みやBIM技術の習得で産業界で求められる人材を育成します。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		二級建築施工管理補、二級建築士、ビジネス検定能力検定、福祉住環境コーディネーター、商業施設士、マンションリフォームマネジャー 中退率:4%																																				
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																								
4年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入		4,170 単位時間 単位		2,340 単位時間 単位		210 単位時間 単位		3,000 単位時間 単位		0 単位時間 単位		0 単位時間 単位																						
生徒総定員		生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																																
320人		287人		2人		1%																																
就職等の状況		<p>■卒業者数(C) : 100 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 95 人</p> <p>■就職者数(E) : 94 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 75 人</p> <p>■就職率(E/D) : 99 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 80 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 94 %</p> <p>■進学者数 : 2 人</p> <p>■その他</p> <p>(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 住友不動産、清水建設、大東建託、高砂熱学工業、大豊建設、朝日工業社、日本国土開発、飛鳥建設、ホーチキ、浅沼組、工藤建設</p>																																				
第三者による学校評価		<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立 専門学校等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月</p> <p>評価結果を掲載したホームページURL https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>																																				
当該学科のホームページURL		https://www.neec.ac.jp/departments/technology/architecture/4years/																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	300 単位時間																																					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間																																					
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																					
うち必修授業時数	300 単位時間																																					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	300 単位時間																																					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																					
総授業時数	単位																																					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																					
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																					
うち必修授業時数	単位																																					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																					
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>5人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	7人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																					
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	4人																																					
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																					
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3人																																					
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																					
計	7人																																					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携体制を確保して、授業科目等の開発・更新、その他の教育課程を編成する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受けることができる体制をとることが可能な企業等を建設業界より選定している。企業や団体とのヒアリング内容をカリキュラム等へ反省する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
梅干野 晁	東京工業大学 名誉教授	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	②
吉田 哲	株式会社日建設計 設計部門 3Dセンター室室長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
佐藤 栄記	株式会社ヤマダホームズ 法人企画室長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
小林 猛	日本工学院八王子専門学校 科長	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回

(開催日時(実績))

第1回 2022年09月28日 11:00～13:00 オンライン

第2回 2023年03月28日 14:00～15:30 オンライン

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

建設の細分化が起きている。それぞれの深さも増している。例えば積算業界でも資格試験や表彰を行っている。そこには女性が多い。建築学会の委員会の数も多く多様になっている。建築学会内に環境などをテーマにする横割りの委員会も多く取り組み自体が求められている。多様な社会に対応するそれぞれの分野の専門家を作ることも視野に入れたカリキュラムや資格試験も多様になっている。また、大学と専門学校の建築学科としての違いを考える。改善案としては、BIMやデジタルを使いこなし、シミュレーションを高い専門性で深化していく学生を作り出すことも重要なため、新カリキュラムのクロッシングテクノロジーやBIMの授業等でシミュレーションを企業との連携により授業展開を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

クロッシング・テクノロジー1では、建築の関連領域に関わる技術やスキルを学ぶことを目的とした複数の内容を選択できるようにしている。グラフィックではイラストレーターやフォトショップ、スケッチではデッサンや技法、プログラミングではプログラミングの技術やビジュアルプログラミングによる制作、ビジュアルでは建物写真や模型写真の撮影方法、思考方法ではパターン・ランゲージを使った課題解決などを学ぶ。また、卒業制作2では卒業制作1にて研究・調査・分析を行った建築物に対して、制作を行うものとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
クロッシング・テクノロジー1	建築に関連の深い領域の知識を教養として講義・演習を通して学びます。	株式会社一級建築士事務所 藤原成暁設計室
建築CAD・CG3	各種ソフトを使用してプレゼンテーション図面を作成することを学びます。	リン・アンド・リンパートナーズ合同会社
設計製図3	RC造・S造等の建築物の課題に取り組み、建築設計のコンセプトの作成、プランニング、プレゼンテーションなどの総合的な手法・技術を実習を通して学びます。	結人建築設計事務所
卒業制作2	4年間学んだことを基礎にして各種建築物等の設計を中心にまとめます。	トートアーキテクトLab合同会社
設計計画3	実践的な課題を通して、総合的に建築の計画、設計手法について学びます。	有限会社リノベイトダブリュ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	高精度3D計測～モデリングの重要性と事例紹介	連携企業等:	株式会社U'sFactory
期間:	2022年9月16日	テクノロジーカレッジ 対象:	建築設計科／建築学科、土木・造園科 教
内容	5G、メタバース、バーチャルリアリティ、オーグメントドリアリティ、3Dディスプレイなどの技術の急速な発展に伴い、高精細なカラー3Dモデリングの需要が徐々に高まっています。様々なカラー3Dスキャンとモデリングソリューションの中で、どのソリューションが教育にとってより効果的なのかどのソリューションが教育にとってより適しているのか、理解することが今後のデジタル人材を育成するために必要だと考えました。高精細3Dカラーモデルに対する様々な要求のタイプを知る必要があることです。さまざまなシーンで、ユーザーは自分のニーズに応じて最適なソリューションを選択する必要があります。		
研修名:	技能五輪国際大会 特別開催 World Skills Competition 2022 Special Edition	連携企業等:	中央職業能力開発協会HP
期間:	2022年10月18日～10月26日	テクノロジーカレッジ 対象:	建築設計科／建築学科、土木・造園科 教
内容	技能五輪国際大会は、英語では、World Skills Competitionと呼ばれています。この大会には、憲章が定められており、大会の目的は、参加各国における職業訓練の振興と青年技能者の国際交流、親善を図ることにあります。技能五輪国際大会へ新規職種として追加された「デジタル・コンストラクション」職種の競技実施方法を現地視察と調査、レポートを行うために参加し、世界大会である技能五輪国際大会で、競技として出題される課題や方法は「世界標準」であり、日本におけるBIM教育の参考とするために視察する。		
研修名:	AIと建築設計	連携企業等:	合同会社高木秀事務所
期間:	2022年12月20日	テクノロジーカレッジ 対象:	建築設計科／建築学科、土木造園科 教員
内容	AI技術の発展はさまざまな業界でAIを活用する動きが加速しています。普段の生活においてもAIと触れ合う機会は増加しており、ますます身近な存在になりつつあるといえるでしょう。そんな、身近な存在になりつつあるAIですが、最近では建設業界においても導入されるケースが多くなってきています。建設業にAIを導入した場合、どのような形で業務効率化が進んでいくのでしょうか。また、AIの導入によって人間の仕事がなくなる可能性はあるのでしょうか。これらの点について、設計業務でAIを使用している専門家からレクチャーを受け、次世代を創造します。		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	ハラスメント防止研修	連携企業等:	社会保険労務士 曾田 究氏
期間:	2022年8月4日	対象:	日本工学院八王子専門学校教職員
内容	ハラスメントを知り、防止する(パワハラ、セクハラ、妊娠・出産に関するハラスメント)		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	大林組 次世代型研修施設 (日本初の高層純木造耐火建築物)	連携企業等:	株式会社大林組
期間:	2023年夏予定	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科／建築学 科、土木・造園科 教
内容	株式会社大林組(本社:東京都港区、社長:蓮輪賢治)は、自社の次世代型研修施設として、全ての地上構造部材(柱・梁・床・壁)を木材とした高層純木造耐火建築物「Port Plus」を建設しました。純木造耐火建築物としては、国内最高となる高さ44m(11階建て)です。木造建築の高層建築を見学し、SDGsや室内設備、環境配慮型の建築物を体験することで授業へのフィードバックを行う。		

研修名:	BIM技術(中級～上級)スキル講習	連携企業等:	Autodesk
期間:	2023年夏予定	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科／建築学 科、土木造園科 教員
内容	令和5年度より国土交通省のBIM/CIM原則適用が始まり、施工段階でも今後3次元の設計成果物が増えてくることで、BIM/CIM原則適用への対応が迫られるようになります。特に施工段階に着目し、令和5年度のBIM/CIM原則適用の動向や内容について学習した上で、BIMの中級～上級のスキル向上を図る。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	哲学対話～課題発見・問題解決の方法～	連携企業等:	滴塾 第二学舎
期間:	2023年夏予定	対象:	テクノロジーカレッジ 建築設計科／建築学 科、土木造園科 教員
内容	哲学対話とは対話の参加者が輪になって問いを出し合い、一緒に考えを深めていくという対話のあり方です。近年においては、日本でも哲学対話の実践が普及するようになりました。日本における実践は、アメリカで始まった「子どものための哲学」やフランス発の「哲学カフェ」などが原点とされています。学生の専門分野のスキル向上だけでなく、人間力やコミュニケーション力といった部分の強化、また自らで考え抜く力が必要となるため教員がファシリテーションを学ぶ研修を行う。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

・コロナ禍における学校運営の困難な中、新たな取り組み、施設面、教学面等々を伺う中で驚愕するとともに敬意を表したいと思
います。殊に学生を第一義としての設備の拡充とこの時期に特に求められる学生のメンタルケアへの取り組みを評価したいと思います。
また、教育マネジメント部の様々な取り組みが更なるデータ資料となり学生支援、並びに教職員の方々の意欲の向上そして学園の更
なる発展へのステップとなることを期待しています。

・課題解決に対し、年度ごとに十分な対策をたて、設備投資が実施出来ているということは、財政基盤が確りとしているからでこそと
思います。

・貴校の学生に対する思いには都度感心するばかりです。学生の為に取組みされている新しい部門(教育マネジメント部)を立ち上げた
事により、現状に満足することなく、さらなる高みを目指されている事かと存じます。いろいろな分析にて貴校の状況(学生の考えや
教職員の満足度等)を可視化し、評価していくのだと思います。1年、2年にとどまらず、継続して実施して頂ければと思います。

・卒業後の進路になる企業として、学校の取り組みやどういった人材を育てようとしているかがわかるのは非常にありがたいです。在
校生だけでなく、OBの方々と繋がりも持てるようになると、更に連携も取れるかなと思いましたので、今後に期待しております。

・イケアとコラボされた図書館のリニューアルに驚きましたが、まだHPには掲載されていないようなのでもったいないなと思いました。

・一部に改善がなされると望ましい項目もありましたが、時間を要することと思いますので、継続した取り組みがなされるとよろしいか
と思います。全体的には学校運営がなされていると感じました。

・貴校が真摯に学生・教育に向き合い、常に改善を図っていく姿勢が感じられました。図書館の改修をはじめとする設備の充実化も学
生の学習意欲の向上に寄与すると思います。進学を志す学生が多いことが学びを楽しめる環境であることを証明していると思いま
す。また、教職員の自己評価で「仕事にやりがいを感じる」との回答が多いことは、教育に対する熱意を感じますし、良い社会人を生
み出す原動力になると思います。引き続き、地域とのつながりを重視するとともに、卒業生が在籍する企業とのつながりも強化して
いくことで、就職率の向上と貴校のブランド力の向上を図っていただきたいと思います。

・専門性を追求するカリッジ制を導入し、時代の求める真のスペシャリストを育成するために、目標や計画を実施している事が確認で
きました。また、社会人として必要な教養を身に付け、勤労と責任を重んずる、心身ともに健全なる技術者の育成を人材像として揚
げ、取り組んでおられる事も確認できました。コロナ禍の中、継続して安定した学生数が確保されている事も、強みであると感じま
した。今後とも、御校から素晴らしい人材が地元八王子に貢献していただけることを、心より祈念いたします。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. 学生満足度の向上
・学生を知る活動の継続、日本工学院の独自性を発揮して生活面・感情面を充実させる。
2. 教育の質保証と向上
・教職員の資質向上、満足度向上
3. 就職支援
就職満足度の向上、社会に貢献できる学生の育成サポート強化
4. コロナ禍における新しい時代に向けた「高専連携・地域貢献・地域連携」を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	卒業生/企 業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委 員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委 員
才丸 大介	株式会社力オルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委 員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委 員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委 員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委 員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和4年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			建築入門	建築を学ぶ人材に特有の考え方を知り建築の楽しさを体験するとともに、これから学ぶ科目の概要を学びます。	1・前	15	1	○			○	○			
2	○			建築計画1	建築を計画し、デザインするための基礎知識・寸法計画や、バリアフリーなどの分野についても学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
3	○			建築計画2	住宅建築およびオフィス、店舗などの商業建築の計画手法について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
4	○			建築史	建築様式や美意識の変遷、デザインと建築技術の関係を理解します。	1・前	30	2	○			○	○			
5	○			建築設備	快適な空間づくりのために必要な設備の基本について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
6	○			建築一般構造1	建築構造の種類、構造材の種類および木造建築の構造を中心に学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
7	○			建築一般構造2	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造などの構造を中心に学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
8	○			構造力学1	安全な建物を設計するための構造計算の基礎について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
9	○			建築生産1	木造在来工法と鉄筋コンクリート造の施工方法について学びます。	1・後	30	2	○			○	○			
10	○			建築材料	木材、石材、コンクリート、金属、ガラスなどの材料特性について学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
11	○			建築製図1	建築製図の規則について習得します。	1・前	30	1			○	○	○			
12	○			基礎デザイン	図法、透視図法、基礎立体の作成を通して表現方法を学びます。	1・前	30	1			○	○	○			

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			設計演習1	木造一戸建て住宅の設計課題を通して、住宅の平面計画を思考し、建築物として提案書にまとめます。また、自分の提案を相手に伝えるためにプレゼンテーションを行います。	1・後	60	2			○	○		○		
14	○			コンピュータ・リテラシー	コンピュータの基本操作やデータ提出方法などを知り、文書・表計算作成を行います。	1・前	60	2			○	○		○		
15	○			CAD演習	2次元CADの平面図・立面図・断面図の作図方法を習得し、図面としてまとめます。	1・後	60	2			○	○		○		
16	○			ものづくり実習1	建築の表現技法の1つである模型の制作方法を身につけます。	1・前	30	1			○	○		○		
17	○			ものづくり実習2	家具や構造物の制作を通して原寸大ものづくりの手順などを身につけます。	1・後	30	1			○	○		○		
18			○	BIM・デジタルデザイン概論	BIM技術やデジタルデザインの可能性について講義を通して把握します。	1・後	15	1	○			○		○		
19			○	建築・インテリア設計概論	建築・インテリアの設計、意匠設計の可能性や業界の動向を探ります。	1・後	15	1	○			○		○		
20			○	建築構造・設備概論	構造設計・設備設計業界の動向や将来の可能性について学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
21			○	建築施工概論	施工管理の業界動向を知り、建築現場見学を通して、建築施工の将来について学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
22	○			測量実習・材料実験	距離の測量方法と建築材料の力学的性質を、実習・実験を通して学びます。	1・後	30	1			○	○		○		
23	○			福祉と建築	建築における福祉の考え方を学び、福祉住環境コーディネーター検定試験を受験します。	1・後	30	2	○			○		○		
24			○	二級建築士講座1	建築計画、建築法規、建築構造、建築施工の4科目について、問題演習を通して学びます。	1・前	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25			○	二級建築士講座2	建築士製図試験に必要な知識・技術を、問題演習を通して学びます。	1・前	30	2	○			○	○			
26	○			建築フィールドワーク	有名建築に行き周辺の環境や建築の空間を含めて体験したり、実測調査を行い図面に起こします。	1・前	30	1			○	○	○	○		
27			○	建築デザイン研修1	海外・国内における建築デザインの動向を事前調査を行った上で現地に行き見学・体験学習を行います。	1・通	30	1			○	○	○	○		
28	○			クロッシング・テクノロジー1	建築に関連の深い領域の知識を教養として講義・演習を通して学びます。	1・通	60	2			○	○		○	○	○
29	○			ビジネスと社会	社会人に必要なビジネスマナーや社会常識を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
30	○			スポーツ実習1	様々なスポーツの実習を開講します。	1・通	30	1			○	○			○	
31	○			外国語1	テクノロジー分野の英語の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
32			○	教養学1	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・前	30	2	○			○		○		
33			○	教養学2	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・前	30	2	○			○		○		
34			○	教養学3	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・前	30	2	○			○		○		
35			○	教養学4	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・前	30	2	○			○		○		
36			○	教養学5	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・後	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程建築学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○ 教養学6	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学7	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学8	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学9	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	1・後	30	2	○			○	○			
	○		建築概論	建築の職業倫理や、様々な人が関わるプロジェクトの進め方について学びます。	2・前	15	1	○			○	○			
	○		建築計画3	学校、図書館などの公共施設の計画手法について学びます。	2・前	30	2	○			○	○			
	○		環境工学1	光、音・熱、空気などの室内環境に関わる基礎的な知識と建築計画への応用について学びます。	2・前	30	2	○			○	○			
	○		建築法規1	建築を安全・快適に設計するための法規の基礎について学びます。	2・前	30	2	○			○	○			
	○		建築法規2	建築の大きさ・高さなどのルールや、建築士・建設業者が守るべき規則について学びます。	2・後	30	2	○			○	○			
	○		構造力学2	静定構造及び不静定構造の力学的仕組みについて学びます。	2・前	30	2	○			○	○			
	○		建築生産2	鉄骨構造やコンクリートブロック構造、建物の工事の流れや仕上げ工事について学びます。	2・後	30	2	○			○	○			
	○		設計演習2	RC造またはS造の中規模建築物の設計課題を通して、建築設計のコンセプトの作成、プランニング、プレゼンテーションなどの総合的な手法・技術を演習を通して学びます。	2・前	60	2			○	○	○			

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
49	○			設計演習3	RC造またはS造の中規模建築物の設計課題を通して、集合住宅や学生寮など集まって住む用途の建築物の設計を行います。	2・後	60	2			○	○		○		
50	○			建築製図2	建築設計実務に必要な図面(展開図、矩形図、他)を作図するためのスキルを身につけます。	2・前	30	1			○	○		○		
51	○			BIM演習1	BIMの概念を知り、3次元データから2次元図面を出力する流れを習得します。	2・前	60	2			○	○	○	○		
52	○			BIM演習2	BIMデータを用いた設計作品のプレゼンテーションを行います。	2・後	60	2			○	○	○	○		
53	○			ものづくり実習3	デジタルファブリケーションの概要を理解し、簡単なモデルを制作します。	2・前	30	1			○	○		○		
54	○			ものづくり実習4	デジタルファブリケーションを活用したものづくりを行います。	2・後	30	1			○	○		○		
55	○			建築施工管理	建設工事の施工管理業務を、二級建築施工管理技術検定試験を通して学びます。	2・通	90	6	○			○		○		
56			○	二級建築士講座3	二級建築士学科試験4科目に関連した分野を問題演習を通して学びます。	2・後	30	2		○		○		○		
57			○	BIM・デジタルデザイン実習1	BIM・デジタルデザインの表現技法を実習を通じて身につけます。	2・前	30	1			○	○	○	○		
58			○	BIM・デジタルデザイン実習2	BIM技術における高度な操作・表現技法を実習を通して習得します。	2・後	60	2			○	○	○	○		
59			○	建築・インテリア設計実習1	建築・インテリア設計のコンセプト立案や表現技法などを実習を通して身につけます。	2・前	30	1			○	○	○	○		
60			○	建築・インテリア設計実習2	建築・インテリア設計の計画を表現するプレゼンテーション技法を実習を通して習得します。	2・後	60	2			○	○	○	○		

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
61			○	建築構造・設備実習1	空調・給排水・照明・配線など設備図の表現方法について学びます。	2・前	30	1			○	○	○	○		
62			○	建築構造・設備実習2	木構造の軸組模型作成と構造図面作図を通して構造設計の考え方を学びます。	2・後	60	2			○	○	○	○		
63			○	建築施工実習1	建築現場見学や建築工事に必要な計画図の作図を通して、建築施工管理業務を把握します。	2・前	30	1			○	○		○		
64			○	建築施工実習2	様々な施工体験実習や現場見学を通し施工準備・手順・片付けなどを把握し、施工図の読み方などを学びます。	2・後	60	2			○	○		○		
65			○	建築デザイン研修2	海外・国内における建築デザインの動向を事前調査を行った上で現地に行き見学・体験学習を行います。	2・通	30	1			○	○	○	○		
66	○			クロッシング・テクノロジー2	建築に関連の深い領域の知識を教養として講義・演習を通して学びます。	2・通	60	2			○	○		○		
67	○			スポーツ実習2	様々なスポーツの実習を開講します。	2・通	30	1			○	○			○	
68			○	外国語2	英会話について学びます。	2・前	15	1	○			○			○	
69			○	教養学10	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・前	30	2	○			○		○		
70			○	教養学11	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・前	30	2	○			○		○		
71			○	教養学12	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・前	30	2	○			○		○		
72			○	教養学13	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・前	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程建築学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○ 教養学14	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・前	30	2	○			○	○			
			○ 教養学15	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学16	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学17	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学18	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・後	30	2	○			○	○			
			○ 教養学19	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	2・後	30	2	○			○	○			
	○		建築研究1	机上で理解した上で、実際に現地に行き見学・調査を行い、その内容をレポートにまとめます。	3・前	15	1	○			○	○			
	○		都市計画	日本と海外の都市計画について学び、今後のまちづくりのあり方について考えます。	3・後	30	2	○			○	○			
	○		建築法規3	建築関係法規の単体規定、集団規定、関連法規について、より深く学びます。	3・後	30	2	○			○	○			
			○ 建築積算	建築にまつわるコストの考え方を、建築積算士補試験を通して学びます。	3・前	30	2	○			○	○			
	○		BIM演習3	BIMデータを用いた環境シミュレーションについて学びます。	3・前	60	2			○	○	○			
	○		BIM演習4	BIMと連携した他のソフトの活用方法を学びます。	3・後	60	2			○	○	○			

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
85			○	設計演習4	地域住民が交流する建築物の課題を通して建築の計画、設計手法について学びます。	3・前	120	4			○	○		○		
86	○			設計演習5	企業連携課題を通して、実社会への提案を意識した建築設計提案について学びます。	3・後	60	2			○	○		○		
87	○			デジタルファブリケーション1	デジタルファブリケーションを活用したものづくりをするための方法を学びます。	3・前	30	1			○	○		○		
88	○			デジタルファブリケーション2	デジタルファブリケーションを活用して地域に貢献できるものづくりを行います。	3・後	30	1			○	○		○		
89			○	建築リノベーション講座	マンションリフォームマネージャー試験を通して、リフォーム・リノベーションについて学びます。	3・前	60	2			○	○		○		
90			○	一級建築士講座1	計画、環境・設備、法規、構造、施工について演習問題を中心に取り組みます。	3・後	30	2		○		○		○		
91			○	二級建築士講座4	製図試験についてエスキスから一式図を時間内に完成させるスキルを身につけます。	3・前	30	2		○		○		○		
92			○	木造建築士講座	製図試験に関連した問題演習を中心に取り組みます。	3・前	30	2	○			○		○		
93			○	コーオプ実習1	企業で就業する上で必要なスキルを身につけます。	3・通	30	1			○	○	○	○		
94			○	コーオプ実習2	企業での就業体験を通し実践的な知識や技術、仕事への姿勢などを学びます。	3・通	120	4			○	○	○	○		
95			○	地域連携実習1	地域貢献活動を通して、地域の人のまちづくりに対する考え方を学びます。	3・通	30	1			○	○	○	○		
96			○	地域連携実習2	行政や地域と連携したまちづくり提案を通して、協働によるまちづくりの姿勢について学びます。	3・通	120	4			○	○	○	○		

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
97			○	建築実務演習1	建築・インテリア・構造・設備・施工管理の中で自分が希望する分野の実務について調査しながら他者と情報を共有し学びます。	3・後	60	2			○	○		○		
98			○	建築計画特論	二級建築士の学科試験の計画分野について問題演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
99			○	建築環境・設備特論	二級建築士の学科試験の環境・設備分野について問題演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
100			○	建築法規特論	二級建築士の学科試験の法規分野について問題演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
101			○	建築構造特論	二級建築士の学科試験の構造分野について問題演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
102			○	建築施工特論	二級建築士の学科試験の施工分野について問題演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
103			○	建築士学科特論	二級建築士の学科試験の全分野について問題演習を中心に学びます。	3・前	60	4	○			○		○		
104			○	建築士製図演習	二級建築士の製図試験について問題演習を中心に学びます。	3・前	120	4			○	○		○		
105			○	建築デザイン研修3	海外・国内における建築デザインの動向を事前調査を行った上で現地に行き見学・体験学習を行います。	3・通	30	1			○	○	○	○		
106	○			クロッシング・テクノロジー3	建築に関連の深い領域の知識を教養として講義・演習を通して学びます。	3・通	60	2			○	○		○		
107			○	外国語3	TOEIC,TOEFLなどの検定試験に向けた対策を実施するために開講します。	3・前	15	1	○			○			○	
108			○	教養学20	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・前	30	2	○			○		○		

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
109			○	教養学21	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・前	30	2	○			○	○			
110			○	教養学22	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・前	30	2	○			○	○			
111			○	教養学23	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・前	30	2	○			○	○			
112			○	教養学24	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・前	30	2	○			○	○			
113			○	教養学25	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・後	30	2	○			○	○			
114			○	教養学26	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・後	30	2	○			○	○			
115			○	教養学27	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・後	30	2	○			○	○			
116			○	教養学28	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・後	30	2	○			○	○			
117			○	教養学29	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	3・後	30	2	○			○	○			
118	○			建築研究2	地域の都市や建築物に関連した課題を自らで発見できるような視点を学びます。	4・前	15	1	○			○	○			
119	○			建築計画4	計画原論、都市計画、建築史の分野について、さらに深く専門的に学びます。	4・後	30	2	○			○	○			
120	○			環境工学2	環境負荷低減策として建築における省エネルギーに関して計算方法などを学びます。	4・後	30	2	○			○	○			

(工科技術専門課程建築学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
121	○			構造力学3	鉄筋コンクリート造と鉄骨造の床・柱・梁の断面計算について学びます。	4・前	30	2	○			○		○		
122	○			建築生産3	大規模建築物に応用される建築生産について学びます。	4・前	30	2	○			○		○		
123	○			設計演習6	実践的な課題を通して、総合的に建築の計画、設計手法について学びます。	4・前	60	2			○	○		○		
124	○			卒業制作1	都市における問題点を把握し、建築的に解決する方法を探ります。	4・前	60	2			○	○		○		
125	○			卒業制作2	4年間学んだことを基礎にして各種建築物等の設計を中心にまとめます。	4・後	240	8			○	○		○	○	○
126	○			コンピューターショナル・デザイン1	コンピューターショナル・デザインの基本的技術を学びます。	4・前	60	2			○	○		○		
127	○			コンピューターショナル・デザイン2	コンピューターショナル・デザインの応用的技術を学びます。	4・後	60	2			○	○		○		
128	○			ものづくり総合実習	今までに学んだスキルを活かした作品を制作します。	4・前	60	2			○	○		○		
129	○			一級建築士講座2	計画、環境・設備、法規、構造、施工について演習問題を中心に取り組みます。	4・前	30	2		○		○		○		
130	○			一級建築士講座3	製図試験の演習問題を中心に取り組みます。	4・後	30	2		○		○		○		
131			○	建築実務演習2	建築・インテリア・構造・設備・施工管理の中で自分が希望する分野の実務の内容を実践します。	4・前	90	3			○	○		○		
132			○	建築デザイン研修4	海外・国内における建築デザインの動向を事前調査を行った上で現地に行き見学・体験学習を行います。	4・通	30	1			○	○	○	○		

(工科技術専門課程建築学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
133	○			クロッシング・テクノロジー4	建築に関連の深い領域の知識を教養として講義・演習を通して学びます。	4・通	60	2			○	○		○		
134			○	教養学30	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	4・前	30	2	○			○		○		
135			○	教養学31	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	4・前	30	2	○			○		○		
136			○	教養学32	放送大学の指定科目を学びます。 ※年度により科目および内容を変更する場合があります。	4・前	30	2	○			○		○		
合計						136 科目		5550時間 270単位		単位(単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	卒業時に必修科目2700時間(121単位)および選択科目1470時間(81単位)以上取得し、合計4170時間(202単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方法:	1年次は必修825時間、選択科目300時間以上履修すること。 2年次は必修705時間、選択科目390時間以上履修すること。 3年次は必修375時間、選択科目690時間以上履修すること。 4年次は必修795時間、選択科目90時間以上履修すること。 建築デザイン研修1～4は希望者のみ開講し、隔年開催とする。(夏季等の休業中に実施する) スポーツ実習1、2は校内・外特別授業として開講する。 建築士試験の受験資格要件の改正により科目名を変更する場合がある。	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。